



大浦小学校

所在地：金沢市大浦町ヌ 8 7

電話：076-238-2025

F A X：076-238-2988

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/ooura-e/>

校長名：西川 茂治

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	96	87	103	93	91	103	2	575
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20

	校長	教頭	教諭等								養護	事務	校務	他	合計	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	他						
職員数	1	1	3	3	3	3	3	3	3	2	5	1	1	1	6	36

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

(1) 各教科における学力向上に向けての取組

ア 国語科

「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域の指導においても、学習のまとめとして書く活動を取り入れ、文を自己・相互修正したり、全体で推敲したりなどして、書く力を高めるようにした。その結果、感想文など、量的には、自分の思いを書くことができるようになってきたが、決められた条件の中で文を書いたり、段落を意識して正しく書いたりする力は十分とはいえない。

イ 社会科

授業の導入時に地名探しをするなど、日常的に地図帳を活用したり、地図の掲示により学習環境を整備したりすることで、大陸名や世界の国名、地形の名称に関心を向けさせ、知識面の定着を図った。また、授業終末で、まとめを書く際に、学習感想と学習内容を区別して書く指導により、キーワードを用いてまとめる力は伸びてきたが、考えの根拠を明確にして書く力の育成が必要である。

ウ 算数科

基礎的計算力が良好であることから、これを基盤として、文字言語・図表・グラフ・式など多くの表現形式に触れさせ自力解決の力を伸ばすように指導した。また、日常経験を素材としたり、学習内容を具体的事象と関連させて表現したり理解したりできるように、素材の工夫に取り組んだ。自分の考えを図や表を用いて表現する力は伸びてきたが、筋道立てて簡潔に説明する力は不十分である。

エ 理科

経験や事象を表現するにあたって、適切な方法を選んで行えるようにするために、観察・実験の活動と記録や整理の活動を組み合わせるようにした。また技能に関する評価では、操作させたり、再現させたりといった直接の活動状況を把握し、その実態に応じた指導を行うようにした。理科的事象を理解する力の伸びは見られるが、科学的な言葉を用いて正確に記述する力の育成が必要である。

(2) 授業力の向上を通じて

ア 校内研修・相互参観

年間計画に校内研修会を位置づけ、各教科の指導法や板書や課題の工夫など、直接児童の指導に関わる内容を充実させるようにした。教師間の授業相互参観と併せて、学習規律や授業構成を見直し、改善を図ることができた。

イ 校内チャレンジテスト

夏季・冬季休業明けに計算・漢字などの技能に関するテストを実施することで、児童の学習の意欲付けにつなげるとともに、繰り返し練習により、基礎的事項の定着を図ることができている。

ウ ことばタイム

朝の「ことばタイム」では漢字・計算といった基礎的な繰り返し学習に加え、読書、話す・

聞く活動、暗唱、さらに言語事項などを広く取り扱うことで、言語に関する興味・関心を高めることができている。

2 学力等の現状分析

(1) 国語科

話の中心に気をつけて大事なことを聞き取ることはできている。また、説明的文章の段落相互の関係や内容理解はできているが、要点を捉えることや主語・述語の関係を理解する力が不十分である。

(2) 社会科

日本の位置関係、日本の島の名称などの定着は見られるが、地域学習での石川県の山や川に関する知識の定着及び縮尺と実際の距離の理解が不十分である。また、資料を読み取ったり、2つの資料を関連づけて考察する力が弱い。

(3) 算数科

基本的な四則計算の定着が見られる。除法の場面理解や立体、球に関する理解もできている。また、表やグラフの読み取り、加法と減法の相互関係を図や式で捉えることについても良好である。

(4) 理科

生命・地球領域では、雲の様子と天気の変化に関しては理解できているが、筋肉の働きについて考察すること、メダカの卵の実際の大きさの理解が不十分である。物質・エネルギー領域では電磁石の学習の定着は見られるが、物質の溶解や水が凍ったときの体積変化の理解が不十分である。

3 学力向上の取組

(1) 授業での指導を通じて

ア 国語科

各学年の段階に応じた話し方・聞き方の指導を継続し、内容を正確に聞き取ったり、要点を捉えた分かりやすい話し方ができる力を伸ばす。「書くこと」においては、相手や目的に応じて書こうとすることの中心を明確にした書き方の指導に重点を置く。

イ 社会

地域学習、国土の知識の習得を確実にするため、石川県、日本、世界地図の日常的活用を図る。また、課題解決型授業の中で、考えの根拠を明確にした授業構成をすることで、資料活用の力の育成を図る。

ウ 算数

基礎的計算力の確実な定着及び金沢スタンダードに即して、数量関係を数直線図に位置づける指導を継続する。また、少人数算数の指導の充実を図り、式で説明したり、図と式を関連づけたりする指導、用語を正しく用いて説明する指導により、活用力を伸ばす。

エ 理科

観察・実験を基盤とした、実感のある課題解決型授業を充実させる。結果を科学的な言葉を用いて正しく記録することで、知識の習得を確実にする。また、ノート指導により、指導と評価の一体化を図る。

(2) 授業力の向上を通じて

校内研修で、課題設定の吟味やノート指導についての内容を取り入れ実効性を高める。相互参観を通して、授業力の向上をめざす。

(3) 教科外での活動を通じて

「ことばタイム」における基礎的な繰り返し学習を徹底することで、児童の計算力や言語力を高める。

(4) 家庭との連携を通じて

学力調査の結果を公表するとともに、家庭学習の取り組み方について情報提供を図り、学習習慣の定着を目指す。また、家庭学習に集中して取り組めるように保護者の協力を得たり、家庭学習の内容の質を高めたりする。